

目指す学校像	○学ぶよるこびのある学校 ○人との関わり合いを大切に、地域とともに歩む学校 ○家庭や地域と連携した教育活動を行う、信頼された学校 ○安全で美しい学校
--------	--

重点目標	1 魅力ある学習指導の工夫改善・充実と健康教育の推進 2 豊かな心を育む教育の推進(生徒指導・教育相談の充実)安全・安心で美しい教育環境の整備 3 学校運営協議会を中心に、地域・保護者と共に歩む学校づくりの実現 4 校内研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	○学校評価アンケートの「授業に進んで取り組んでいる」に肯定的に回答した児童が91%である。 ○普段の学習の様子では、タブレットを活用した学習に興味を示す児童が多い。 ●全国学力状況調査では、国語、算数とも市平均と比べ、若干下回る結果である。 ●全国学力状況調査の自校結果より算数の図形分野のと国語の言語分野「知識・技能」に困難さがある。	・授業改善や授業力向上を図り、子どもたちの学力向上を図る。 ・海老沼タイムを活用し、子どもたちの体力アップを目指す。	①STEAMS教育の確実な実施(プログラミング教育)により、論理的思考の育成と共に、児童が主体的に学び、分かったことが実感できる授業を実践する。 ②ICTの活用(ドリルパーク・スタディサプリの活用)をすることで、興味をもって繰り返しの学習を行い基礎基本事項の定着できるようにする。 ③読書タイムや図書室イベント等により読書の習慣化を図る	①学校自己評価アンケートに係る教職員アンケートにより、肯定的な回答をする教員が80%以上となったか。 ②国語、算数について、市学調において令和元年度比向上したか。 ③学校図書館の貸出冊数を昨年度比5%増加したか。						
2	○「ルールを守る」「安全に気を付ける」について肯定的に回答した児童は91%95%と高い割合になっている。 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に支援・相談ができています。 ●コロナの影響が長期化することにより、児童が抱える困難さがより複雑化している。 ●教職員による安全点検を確実に行うだけでなく、昨年度に引き続き児童が自ら危機を予測したり、回避したりする力を育てることが課題である。	・いじめ防止や不登校の子どもたちの心に寄り添った積極的かつ繊細な教育相談及び生徒指導を展開する。 ・安全安心な「学びの場」としての施設・設備、環境の整備と自己防衛力の育成。	①自己評価シート、当初面談を活用し、一人ひとりが活躍でき居場所のある学級づくりを各クラスで行うようにする。 ②組織的な初期対応を確実にし、きめ細かい児童理解を進める。可能性、個性、変化、変容を認める。 ③関連機関との連携やSC・SSWの活用し、児童理解に努める。 ③道徳の授業の充実、体験活動の場や機会の充実	①学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、「学校(学級)が楽しい」の肯定的な評価が90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、生徒指導、教育相談の5項目の肯定的な評価が90%以上となったか。						
3	(現状) ○昨年度、本校に学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を行った。 ●今年度は、昨年度共有した目指す児童の姿を、家庭、地域に広め、地域に住み、地域に集う全ての人々に共有できるようにする。また、さらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・学校運営協議会を中心に、地域保護者とともに歩む学校を目指す。	① <u>スクールコミュニティ</u> による地域・保護者との連携・協働の充実を図る。 ②学校だより、HP等による学校からの情報発信を通して、広く本校の教育活動の理解を図る。 ③教職員個々の良さを生かした+1の関わりを通して、信頼関係の構築を図る。	①年に3回の学校運営協議会で、目指す児童の姿勢を共有できた。と回答する割合が80%以上となったか。 ②月に一度の学校だより、月に一度以上のHPの更新。 ③学校自己評価アンケートに係る教職員アンケートにより、情報提供の2項目の肯定的な回答をする教員が昨年度比より向上となったか。						
4	(現状) ○令和3年度から、学校課題研究を「個別最適な学び」(算数科)を設定し、研修を重ねてきている。 ○学校課題研究と平行してICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を行ってきた。 ○高学年で教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができています。 ●ICTの活用について教職員での取組の差が見られる。 ●自分が担当した教科やクラスの状況について情報を共有したりすることが課題である。	・教師力人間力向上のためキャリアステージに応じた研修の機会を与え個に応じた適切な助言を積極的に行う。 ・教職員の心身の健康に留意し、働き方改革を念頭におき互いを支え合いながら、楽しく生き生きと働ける職場環境を整える。	①一人ひとりの教員が個別最適な学びを目標とした授業を公開する。 ②ICTの活用方法についての研修を、2か月に1回以上実施する。 ③教職員の心身の健康に留意し、働き方改革を念頭におき、互いを支え合いながら、楽しく生き生きと働ける職場環境を整える。	①全ての教員が、自らの目標に向けて業務改善に取り組み、85%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ②全ての教員が日常的にICTを活用する状況になったか。						

